

2008●図書館展示 6 月

展示期間●2008 年 6 月 2 日～ 6 月 27 日

# 明治期の唱歌を彩った西洋曲 —唱歌も軍歌も讃美歌も—

あの曲も、この曲も、明治時代から歌われていた・・・  
明治の唱歌集を飾った外国曲のいくつかを歌詞の変遷や周辺資料と共に展示します。



企画●長谷川由美子（国立音楽大学附属図書館特別資料部）

場所●図書館ブラウジングルーム

# 明治期の唱歌を彩った西洋曲

## 唱歌も軍歌も讚美歌も

明治期の唱歌集には驚くほど多くの外国曲が掲載されている。原曲とはかけ離れた題名がつけられ、忠君愛国、花鳥風月等の古めかしい歌詞・・・作曲者名は書かれないこともあり、たまに書いてあっても間違っていたり、旋律も多少簡素になっていたり、記譜上の間違いもあったり・・・そのため、もとの曲を探し出すのはかなり骨が折れるが、導入期にどのような曲が選ばれ、楽譜として流通したのかを知る上では大変興味深い。現在の私たちの音感覚も連綿と歌い継がれてきたこの明治期の外国曲と無関係ではないだろう。6月展示では明治時代の唱歌に掲載された外国作品のうち、旋律がすぐに思い浮かぶような作曲家の作品で掲載回数の多いものを選んで、周辺資料と共に展示した。

### 目次

ベートーヴェン・・・	2
ベッリーニ・・・	3
メンデルスゾーン・・・	4
モーツァルト・・・	5
ルソー・・・	7
シューベルト・・・	8
シューマン・・・	9
ワーグナー・・・	10
ウェーバー・・・	10
歌詞一覧・・・	12

企画 長谷川由美子（国立音楽大学附属図書館特別資料部）

まず、明治 20 年に描かれた錦絵をご覧ください。揚洲周延描く『小学唱歌之略図』である。背景に彫られた唱歌の歌詞は『小學 唱歌集』の初編から採られた。絵では横長の数字譜らしき一枚ものの楽譜を持って歌っている人々が描かれているが、実際の『小學 唱歌集』はもっと小ぶりで、数字譜ではなく、五線譜によっている。しっかり楽譜を読んでいるご婦人方に比べて、隣を覗き込んで困惑気味の男性たちが面白い。明治 14 年から 17 年にかけて出版された『小學 唱歌集』は絵の題材になるほど大きなニュースだった。錦絵では、この絵のほかにも明治の西洋音楽受容を材料にした絵が数枚ある。

## 展示資料

小学唱歌之略圖 大判錦絵 3 枚続き 揚洲周延画  
東京：横山良八，明治 20 年

---

## ベートーヴェンと 庭の千草

Wo0153 . No.6: 悲しく不運なりし季節 スミス詞

Wo0153. No.9: あなたの残した口づけはパイロン詞

---

ベートーヴェンの曲は 自然における神の栄光 (Op. 48-4)、モルモット (Op. 52-7)、忠実なジョニー (Op. 108-20) の歌曲をはじめとして、『七重奏曲』(Op. 20) や『第二交響曲』(Op. 36) の第 2 楽章や第 3 楽章などの器楽曲も歌詞がついて唱歌集へ頻繁に掲載された。また、讚美歌やオルガンの練習曲にも曲の一部が使われている。さらに、嗚呼、ベートーヴェン といったベートーヴェンを讚美する歌詞をもつ唱歌もある。今回の展示ではベートーヴェンの作品としてはあまり顧みられることのない民謡編曲の中から、原曲のメロディーが 庭の千草 としてよく知られている曲を取り上げる。ベートーヴェンはこの旋律に 2 種類の異なった編曲をほどこし、器楽による変奏曲 (作品 105) も書いている。

このアイルランド民謡は、『小學 唱歌集』の三編に 菊 として登場したのち、共に學びし (明治 21 年 5 月)、學友會合の歌 (明治 23 年 5 月)、花がたみ (明治 23 年 8 月)、春興 明治 23 年 9 月、薔薇 (明治 30 年 11 月)、薔薇の花 (明治 39 年 4 月) と続き、英語の原語でも明治 36 年 2 月、明治 42 年 2 月と頻繁に唱歌集に登場した。

一緒に展示したベートーヴェンの民謡編曲集は 1814 年に 1 巻が、1816 年に 2 巻が出版された。両方の巻には豪華な口絵が添えられている。第 1 巻の口絵の作者は当時のイギリスで最も権威ある画家であったレナルズである。1775 年に制作されたこの絵は、ハーブを弾く音楽守護人の聖チェチーリアとそれに聴き入るエンジェルの図柄という、注文主ワトキン卿の「音楽室」を飾るのにふさわしいものである。曲集の出版者、トムソンは、ワトキン卿の好意によって絵を使わせて貰ったことを、前書きで述べている。また、第 2 巻の絵も当時名のある画家だったアダムの絵が原画となっている。口絵のほかにタイトル・ページも飾り枠で囲まれていることや、大型の楽譜であることなど、トムソンはかなり気を入れて、愛好者の目を引くようにと楽譜を飾りたてて出版したのである。



レナルズ作の口絵

## 展示資料

Beethoven, Ludwig van "Select Collection of Original Irish Airs...by Beethoven. 2 vols"  
London, Thomson, 1814, 1816

庭の千草 と同じ旋律につけた 2 種類の民謡が第 2 巻の 32 番と 37 番にある。

<菊> 小學 唱歌集 第3編、

東京：高等師範學校付屬音樂學校，明治 17 年 3 月 請求記号 C15-902

最初の唱歌教科書。全 3 巻、全 91 曲のうち、約 8 割が外国曲。イギリス民謡の 庭の千草、螢の光、スコットランドの釣鐘草 やドイツ民謡の 霞か雲か、ウェルナーの 野ばら などを収録。後の唱歌集への再録が最も多いのはこの曲集に掲載された曲である。

<菊>は、時には<白菊>という題で、その後 17 回も他の唱歌集に再録、

<共に學びし> 明治唱歌 第一集、

東京：中央堂，明治 21 年 5 月 請求記号 MFC5-095

全 6 巻、全 142 曲。その多くは外国曲で、麦畑、ローレイ、スワニー河、埴生の宿、ま白き富士の嶺、カッコウ、春への憧れ、'魔弾の射手'序曲など、その後の唱歌集に再録される多くの曲を生み出した。

<共に學びし>はその後 3 回他の唱歌集に収録、

ベッリーニ

オペラ『ノルマ』より " 予言の力で " Del aura tua profetica

ベッリーニの曲は、オペラ『清教徒』からの 喇叭の響きが聞こえ、オペラ『ノルマ』の 行進曲や 予言の力で が、唱歌集や『進行曲集』（明治時代は行進曲のことをこう呼んでいた）に好んで使われた。この中でもオペラ『ノルマ』の 予言の力で は、原曲がどのような形で日本に入ってきて定着したのかがよくわかる例である。

明治に組織が作られた陸軍軍楽隊はフランス人ルルーの指導の後、ドイツ人のエッケルトの指導を仰ぐ。エッケルトは軍楽隊の訓練のため、多くの楽譜をヨーロッパに注文したが、その中にノルマの主題をもとにした 幻想曲 があった。印刷譜を編曲して使ったのだろう、現在伝えられているのは手書きのスコアである。

予言の力で を元にした 月下陣 は当時の音楽雑誌『音楽雑誌』の 33 号(明治 26 年 6 月)に楽譜付で発表された。『月下陣(軍歌) 永井人籟樂士作歌撰曲』と記されたように、作詞は明治 11 年から陸軍軍楽隊に所属し、ルルーの教えを受けた永井建子で、軍歌として用いるために彼が曲を選定した。つまり始めから軍歌として用いるために、軍楽隊が所蔵していたベッリーニの『幻想曲』からのメロディーの一部を使って、原曲のリズムを当時の日本人に受け入れやすいように直して発表したのだった。詞の内容は戦闘後に野営する情景や兵士の真情が描写され、まるで戦争映画の一場面のような叙情性を持っている。



月下陣

永井は最初に『音楽雑誌』に発表した歌詞を多少変更する。後の世に伝えられたのは後のほうである。曲は美しいメロディーや詞ゆえに、一般の唱歌にも取り入れられた。『小學修身唱歌 下の巻』（明治 27 年）には 月下陣 の題で掲載されるが、その後、次のように詞を変えて掲載は続く。

あそび（明治 36 年）、故郷の母（明治 38 年 10 月）、将帰郷（明治 41 年）、端居の夕（明治 41 年）。将帰郷 は東京音楽学校出身者で、武蔵野音楽大学の創設者であった福井直秋の編纂する『日英唱歌集』に掲載されたが、この曲集ではじめて作曲者としてベッリーニの名が記される。また、永井が歌いやすく直した楽譜は原曲に近くなり、印象的なシンコーペーションを生かした歌詞が附されている。

メロディーはヨーロッパでも愛好され、リストをはじめ、タールベルク、チェルニーなどのピアノのヴァルトオーソたちはこのメロディーを変奏曲の主題に使っている。

なお、この曲は最初『軍歌』との副題が付けられていた事もあって、近年になってまとめられた軍歌関係の文献に頻繁に登場して、永井建子が作曲したような書き方がされている。混乱の原因を作ったのは戦前戦後の楽壇に大きな影響力を持っていた堀内敬三であるが、彼はベッリーニ作曲だという事を承知していながら、「永井楽長の作といってもようようなもの」との解説をつけたために、その後の文献は彼を踏襲する事になってしまった。

一緒に展示したのはチェルニーの楽譜である。また、永井が参考にした旧軍楽隊所蔵楽譜（現警視庁音楽隊所蔵）の該当箇所もご覧いただきたい。

## 展示資料

### 月下陣 鼓笛 喇叭 軍歌 実用新譜

東京：共益商社，明治 32 年 6 月 請求記号 MFC0-703

陸軍軍楽隊長永井建子の編纂した楽譜集で、楽典や喇叭、鼓笛の練習曲も含む実用書。永井の信念とも言うべき「音楽を鐘愛する軍人は沈勇なり 事に當り動せず譲らず」の言葉が楽譜半ばに印刷されている。月下陣 とともに、師であったルルーの 抜刀隊 も掲載。

### “Fantaisie sur La Norma : opera ”

請求記号 M8-467 楽曲番号 389

旧陸軍軍楽隊所蔵資料中の「ベッリーニのノルマの主題に基づくファンタジア」の楽譜から、該当箇所。

### <故郷の母> 皇民唱歌集

東京：同文館楽器校具店，明示 38 年 10 月 請求記号 C38-877

全 30 曲がすべて外国曲による曲集。男女高等尋常師範学校、中学校、高等女学校向きに編集された。詞はすべて旗野士郎による。編纂者の渡邊は序文で、新しい外国曲集が手に入ったために唱歌集が編纂できたと記す。

### Czerny, Carl “Variations brillantes pour un Piano-Forte ”

[Wien, A. Diabelli, 1835]

チェルニー作曲の 1 台 6 手によるベッリーニの「ノルマ」の主題に基づく幻想曲。予言の力で の主題は後半に登場し、華麗なフィナーレを形作る材料として使用。

---

## メンデルスゾーン

### 祝祭歌（ゲーテンベルク・カンタータ）

#### ひばりの歌

---

明治期を通してメンデルスゾーンの歌はかなり多く日本に紹介されている。オラトリオ「エリア」からの 天使の合唱 や、夕べの歌（作品番号なし）、民謡（op. 47-4）、日曜の朝（op. 77-1）、森への別れ（op. 59-3）等、美しくしかも比較的単純な旋律は洋楽導入期の日本人には喜んで受け入れられたと思われる。ここでは現代の私たちもその旋律をすぐに思い出せる 2 つの曲を取り上げる。

#### ゲーテンベルク・カンタータ

曲が作曲された 1840 年は、400 年前に発明されたゲーテンベルクの活版印刷術記念の大掛かりな式典がドイツ出版業界の中心地であるライプツィヒであった年である。さまざまな式典がおこなわれたが、その一つに新しいゲーテンベルク像の除幕式があった。メンデルスゾーンがこの式典のために作曲した通称 ゲーテンベルク・カンタータ は男声合唱と 2 重ブラスバンドのためのいわゆる「機会音楽」である。たった一回の除幕式のために、野外で演奏されるように作られた曲は、1856 年に教会音楽家で資料収集家として名高いカミングスが、ウェズレイ作詞のクリスマス賛歌 “Hark! The herald angels sing” にメロディーを借用したことで、世界中に広まり、クリスマスの歌として第二の生を生きることになった。

日本には明治 17 年出版の「譜附 基督教聖歌集」に収録されたのが最初である。メンデルスゾーンの原曲は弱起で始まるが、賛美歌に取り入れられた際、強拍で始まるように編曲されていたため、以後この形で普及する。



ただ一部の明治の讚美歌集では原曲どおり弱起で始まっている。賛美歌以外の収録では明治 26 年 8 月出版の「小學唱歌 巻之四 下」で谷勤の詞による 皇統（天皇家讚美の歌）が最初である。

その後も 進取の歌 (明治 39 年 11 月)、日の御旗 (明治 43 年 9 月)と当時の富国強兵の影響を強く受けた歌詞で唱歌集に登場する。皇統 は『撰定軍歌』(東京:東京書肆友進閣、明治 33 年 5 月)にも収録され、軍歌としても歌われた。

#### ひばりの歌

メンデルスゾーンはアマチュア向けの合唱曲を比較的多く作曲したが、その中でもこの ひばりの歌 は特に有名である。最初に日本に紹介されたのは明治 25 年 5 月出版の『幼稚園唱歌』の中だった。春の歌 と題されたこの曲は多少旋律が編曲されて、原曲にはない簡単なピアノ伴奏がついている。

その後 牽牛花 (あさがおのことを言う)、 琴の音 と続く。牽牛花 では歌詞の上に数字がふってある。これは数字譜といい、旋律を移動ドで読んで、ドレミファソラを 1,2,3,4,5,6 に直した楽譜である。現代の私たちはこの数字譜の方が読みづらいが、明治の人には五線譜は難しく、明治時代のかんりの楽譜が五線譜と数字譜を併用しているし、五線譜だけで記された楽譜には使用者が鉛筆で数字を書き込んだ跡が見られたりする。なお、原曲の歌詞を忠実に訳した歌詞は大正時代に入って多数出版された。

### 展示資料

#### 譜附 基督教聖歌集

横浜:美以美教會雜書, 明治 19 年 5 月(明治 17 年出版の第 2 版) 請求記号 A10-954

#### <皇統> 小學唱歌 卷之四 下.

東京:大日本圖書, 明治 26 年 8 月 請求記号 C46-563

伊澤修二編集による唱歌集で、全 6 巻、158 曲。第一巻目には西洋曲を含まないが、2 巻以降徐々にその比率が多くなる。

皇統 はこの唱歌集に掲載された後、6 回ほど他の唱歌集に掲載。

#### <琴の音> 女學唱歌 第壹集

東京:共益商社樂樂器店, 明治 33 年 8 月 請求記号 C16-131

全 2 巻。山田源一郎の編集で明治 33 - 34 年に出版。記譜法は五線譜だけになり、2 重唱、3 重唱、輪唱も含まれる。第 1 巻は全 35 曲で、編者、山田の作品が 4 曲収録されるが、第 2 巻、全 22 曲はすべて西洋曲。ベッリーニの『ノルマ』からの 行進曲、『清教徒』からの 喇叭の響きが聞こえ、ブラームスの 眠りの精、当時のロシア国歌、モーツァルトの フリーメイソンの歌、ベートーヴェンの交響曲第 2 番の 3 楽章に歌詞をつけた曲その他、

琴の音 はその後 4 回、他の唱歌集に再録。

---

## モーツァルト

### 『魔笛』より

#### 春への憧れ

---

モーツァルトは頻繁にそのメロディーが借用された作曲家の一人である。『フィガロの結婚』から もう飛ぶまいぞこの蝶々、アヴェ・ヴェルムス・コルプス、すみれ、『フリーメイソン小カンタータ』の 我ら手に手をとって、『皇帝ティトゥスの慈悲』のセストとアンニオの二重唱のほか、ピアノソナタにも歌詞がついた。

#### 『魔笛』より

その中でも最も有名な例はパパゲーノのアリアだろう。オペラ『魔笛』のパパゲーノのアリア 恋人か女房が が最初の唱歌集である『小學 唱歌集』第三編にリズムを変えて掲載されたために、明治時代のモーツァルトというこのアリアだけが注目を集めているが、実のところ、この唱歌 誠は人の道 はその後、7 回程他の曲集に収録された以外、旋律が別の歌詞を付けて歌い続けられるということはまったくなかった。弾むようなパパゲーノのリズムはおっとりのんびりした 4 拍子に変えられ、道徳的な歌詞が付けられて、原曲の魅力が消えうせてしまったため、曲の伝承は明治時代で



誠は人の道

御陵威の光 と曲数としては多いが、誠は人の道 と同じく、旋律が再利用される事はほとんどなかった。

一緒に展示した”Freymauerer Lieder mit Melodien”は 1795 年に出版されたフリーメイソンのための歌曲集で、パパゲーノのアリアが第一曲に置かれ、歌詞は道徳的な内容に変えられている。同じくザラストロのアリアが2番目に、第2幕3人の童子の重唱が4番目にある。

#### 春への憧れ

それと対照的なのは 春への憧れ (K. 596)である。原曲は元々子供向きに書かれた曲である。つまり、美しく、しかも明快な旋律を欲していた明治時代の音楽編集者たちにとってはまたとない曲だったにちがいない。『小學 唱歌集』編纂の中心人物だったアメリカ人のメイソンがボストン時代に編集した歌の教科書”Second Music Reader”には2小節目のリズムやその他多少の変更を施されて収録されているが、これがメイソンの来日と共に日本にもたらされたと思われる。

明治の20年代に入ると多くのドイツ民謡集からの曲が日本に輸入されるため、ドイツから直接日本に渡ってきた可能性もなくはないが、ドイツ民謡集に収録されているこの曲のリズムは原曲どおりのため、アメリカ経由と考えるほうが自然だろう。曲の題名と年代は次のとおり

上野の岡 明治21年12月、千代田の宮居 明治22年12月、山家春暁 明治25年3月、勤學 明治25年3月、始業式 明治26年10月、夏 明治30年11月 蓮の花 漁船 明治38年10月、うれしき春 明治40年6月、ゆかしいぢらし 明治41年7月、春の曙 明治44年2月。

なお、ゆかしいぢらし はこの題名のまま、明治42年に『撰定オルガン教本』に、同じく同年出版の『ヴァイオリン教則本』ではドイツ語の原題を伴って収録されているが、やはりリズムや細かい音の動きは原曲とは異なり、日本で広まった旋律によっている。

一緒に展示した”Liedersammlung für Kinder und Kinderfreunde ”は1791年に出版された。初版。この楽譜は「春の歌集」だが、「冬の歌集」もある。編者は、秋編、夏編を出版するつもだったようだが、果たせなかった。春への憧れ はこの曲集の最初を飾った。なお、同じモーツァルトの歌曲 春 (K. 597)が14番目に掲載されている。



#### 展示資料

##### <誠八人の道> 小學 唱歌集 第3編

東京：高等師範学校附属音楽学校，明治17年3月 請求記号 C15-902  
メイソン著の“Second music reader”に掲載された旋律線を基にしてある。

##### 山家春暁 新編 中等唱歌

東京，内田正義，明治25年3月 請求記号 MFC5-459  
奥好義編集で、全21曲。序文で奥は 歌曲の作者を記るさるハ泰西音楽大家ハイデン氏モツアート氏メンデルゾーン氏ジルヘル氏アプト氏等の製作なり となっているが、現時点でメンデルゾーン、アプトの曲の同定は出来ていない。外国曲は オーストリア国歌、 仰げば尊し やウェーバーの『魔弾の射手』から アガーテの祈り 他。  
山家春暁 はその後3回この題で再録。

<漁船> 教化統合 少年唱歌 第八編

東京:十字屋 明治 38 年 10 月 請求記号 C16-016

全 8 巻、77 曲、田村虎蔵と納所弁次郎の編集。西洋曲は 39 曲で、フォスターの 春風、モミの木、春への憧れ、結婚行進曲、「魔弾の射手」から花輪、ブラームスの 子守唄、ロシア、イギリス、オーストリア、フランスの各国歌などが掲載。

<漁船> はこの唱歌集に収録されたのみ、

“Liedersammlung für Kinder und Kinderfreunde ”

Wien, Alberti, 1791 請求記号 M8-513

展示箇所は<春への憧れ>

“Freymauerer Lieder mit Melodien ”

Berlin, Starcke, 1795 請求記号 M3-420

展示箇所は「魔笛」からパパゲーノのアリア

---

## ルソー

### オペラ『村の占い師』よりパントミム

---

ルソーのいわゆる むすんでひらいて は、『小學 唱歌集 初編』の 13 番目に見渡せば の題で収められたが、この歌は讚美歌にも軍歌にも等しく使われた。

軍歌調の歌詞で 5 種類、讚美歌では 10 種類、その他で 3 種類の歌詞で歌われたが、数ある輸入曲の中で、これほど性格の違うさまざまな曲集に登場した曲はない。

明治 27 年[10] 月 23 日に上野公園内音楽学校講堂で開かれた「國家教育社第四回大集會」で、東京音楽学校教授の鳥居忱は軍歌に関する演説を行ない、ルソーの曲につけた自作の軍歌を披露した。『音楽雑誌』49 号(明治 27 年 11 月)は当日の様子を以下のように伝えている。

其より例を佛國マルセーユ軍歌に採りて佛國民心の如何に論及し終に氏がジヤジャツクルソーが作に擬へて作りたる見渡せばの軍歌の天聽に達せしを披露し又讀賣新聞社の懸賞募集軍歌につき其当選軍歌の曲を奏せしめて降壇せり此日會衆一千餘人

ルソーの名は明治 15 年に中江兆民が社会契約論を訳出した『民約譯解』で一般に知られるようになったが、作曲家としてのルソーも一部には知られていたと考えられる。ちなみに鳥居のこの歌詞は明治 22 年にはすでに出版されていたが、そこにルソーの名は記されていない。海軍軍楽隊の吉本光蔵は自作の行進曲『進撃及追撃』の後半にこのメロディーを使用しているが、それも一緒にお目にかかる。

ルソーの『村の占い師』からのパントミムが長い音楽上の論争を経て、『小學 唱歌集 初編』の 13 番目に収められた

見渡せば の原曲であるとの最終決着を見たのは、海老澤敏氏の著書『む

すんでひらいて考』によるが、原曲の旋律が変化を受けながら、各国で受容されて日本に到着し、さらに日本を経由して中国まで行った道筋が丹念に追われている。この本の中でも取り上げられたクラマーによる変奏曲(1812 年)がピアノ教則本に納められた例を一緒にお目につけよう。

教則本は 1812 年に初版が出るが、初版にこの旋律は含まれていない。しかし、後の版(詳細は不明、当館の

所蔵本では第 4 版(1825 年前後))の第 41 番目に ルソーの夢 という題を伴って現れる。一緒に展示した当館所蔵の『村の占い師』からの パントミム と旋律線を比べると、結んで開いて に近いことがお分かりいただけるだろう。



ルソー『村の占い師』よりパントミム



クラマー ルソーの夢



## 展示資料

### <進撃及び追撃、進撃> 新軍歌

東京：壽盛堂，明治 22 年 8 月 請求記号 MFC5-416

はじめての楽譜つきの軍歌集で、全 19 の詞のうち 4 曲のみに五線譜がつけられた。

<進撃及び追撃、進撃>は同じ年の 3 月に『家庭 唱歌の友』に掲載された<軍歌> の 2 番の歌詞に当たる。

### Rousseau, Jean-Jacques“Le devin du village. Pantmine”

Paris, Boivan, [1753] 請求記号 MF3-038

展示箇所は<結んで開いて>の原曲となったパントミム

### Cramer, Jophann Baptist“The Fourth Edition with Additions & Improvements of J. B. Cramer’s Instructions for the Piano Forte”

London, Latour, [ca. 1825] 請求番号 MF6-528

展示箇所は<ルソーの夢>

### 吉本光蔵 <進撃及追撃>“Einfallen und Nachschlagen Marsch”

請求記号 M8-459 楽曲番号 142

旧陸軍軍楽隊所蔵資料中の<進撃及追撃>、展示場所は<結んで開いて>がテーマとなった行進曲部分

---

## シューベルト

### 菩提樹

---

モーツァルト、メンデルスゾーンと並んで、唱歌集への掲載は常に多い。子守唄 (D.867)、シルヴィアに (D.891)、きけきけ雲雀 (D.889)、さすらい (D.795-1)、野ばら (D.259)、死と乙女 (D.531)、鱒 (D.550)、さすらい人の夜の歌 (D.768)、海の静けさ (D.216)、最初の喪失 (D.226) など、おなじみの曲がずらりと並ぶ。しかし何といっても掲載回数の多い曲は 菩提樹 であろう。

明治の唱歌はその旋律の多くをドイツ民謡集から借りてきている。しかし数あるドイツ民謡集のどれが日本にもたらされたのかについては現在のところ、わかっていない。その一部はアメリカ経由でメイソンと共に入ってきたし、又いくつかの曲は音楽取調係の購入した歌曲集の中に同じ曲を見つける事が出来るが、詳細は不明である。さて、この 菩提樹 であるが、ほとんどすべてと言ってよいほど、さまざまなドイツ民謡集は 菩提樹 を載せている。合唱の形で載ることも多い。これらの曲はローレイを作曲したジルヒャーが民謡風に改変した版であるが、ジルヒャー編曲をさらに単純にしてある版もある。日本で出版された版はジルヒャーを基にしてあるが、細部はいろいろ異なっている。

菩提樹 の旋律の唱歌集への掲載は『明治唱歌』(明治 23 年)第 5 集に大和田建樹詞による 雀の子 が最初で、同時に明治における最初の旋律使用である。作歌者大和田は 500 曲以上の曲に詞をつけ、その数の多さは郡を抜いているが、同じ旋律に内容のまったく異なる複数の詞をつけたこともあった。この 菩提樹 にも明治 41 年に 朧月 の題で別の歌詞が付けられた。歌詞一覧のうちで一番注目すべきは近藤朔風の 菩提樹 である。原詩の内容をなるべく生かし、また、旋律に沿った自然な抑揚を保った詩は現在でも歌われ続けている。朔風の姿勢はこの後、訳詩家の基本姿勢となり、洗練された日本語での訳詩の端緒となった。

## 展示資料

### <門の椎の木> 中等 音楽教科書(甲種)巻参

東京：好樂社，明治 41 年 6 月(大正 10 年 3 月訂正 9 版) 請求記号 C15-975

北村季晴編集の音楽教科書全 4 巻、全 109 曲で、西洋曲は 49 曲、ベッリーニの『海賊』からのアリア、ベッリーニの<予言の力で>、<楽しき農夫>、ウェーバーの『プレチオーザ』から<ジブシーの合唱>、『魔弾の射手』から序曲と狩人の合唱、シューマンの<夢>、『魔笛』の第一幕フィナーレ、ベートーヴェンの<自然のおける神の栄光>、ロッシニの『ギョーム・テル』から村人たちの合唱、『皇帝ティトゥスの慈悲』からの二重唱他。

<門の椎の木>はその後、同じ編集者による教科書に再録。

---

## シューマン つばめ

---

明治に登場した最初のシューマンの曲は 兵士の歌 (WoO6) で、明治 20 年出版の『幼稚唱歌集』(東京、普通社)に 馬ふとく と題され、軍歌調の歌詞で掲載された。その後も 2 回程他の歌詞で掲載されたが、いずれも軍歌調の歌詞であった。流浪の民 (op. 29-3)、窓の下 (op. 34-3)、はずの花 (Op. 25-7)、美しい花 (op. 43-3)、君は花のごとく (op. 25-24)、夢 (op. 146)、春の挨拶 (op. 79-4)、私の涙から (op. 48-2)等の歌曲のほか、ピアノ曲の トロイメライ や 楽しき農夫 も唱歌集を飾ったが、モーツァルトやシューベルト、ウェーバーの曲がさまざまな歌詞で複数回取り上げられた事に比べると、シューマンの場合は数量的にそれほど多くはない。微妙な色合いをピアノの伴奏で支えるシューマンの歌曲は斉唱で歌うことを前提とした明治時代には高尚過ぎた事も確かだが、『ドイツ民謡集』への掲載も極端に少ない。

ここで取り上げる つばめ は明治 33 年 8 月に『重音唱歌集 壺』(東京、共益商社楽器店)から出版された。原曲は『少年のための歌のアルバム』(作品 79)からの つばめ で、ピアノ伴奏は省かれているが、歌の部分は原曲どおりに掲載された。なお、同じ曲集からは 春の訪れ が、風の訪れ として明治 44 年に『西欧名曲集』に載った。



明治期に唱歌集に収録されたシューマン作品は、他の作曲家の歌が、現在から見ると信じがたい題名や歌詞を付けられているのに比べると最初の 兵士の歌 もこの つばめ もそうだが、原曲をあまり壊さないような詞が付けられている。軍歌調の 兵士の歌 を除き、比較的時代が下ってからの掲載が多いことがその理由であろう。

一緒に展示した楽譜は 1849 年にライプツィヒのブライトコプフ・ウント・ヘルテルから出版された初版を、同じ出版社が後に再版したもので、初版と比べると、掲載曲の順番が変わって、独唱曲が最初に置かれ、その後二重唱曲が続いている。リヒターによるリトグラフの表紙や各曲が緑色の飾り枠で縁取られた初版の形態はそのまま継承された。

### 展示資料

#### <つばめ> 重音唱歌集

東京：共益商社楽器店，明治 33 年 8 月 請求記号 C52-883

小山作之助編纂、全 2 巻、全 68 曲でその大半は西洋曲。

<狩人の合唱>、『セヴィリアの理髪師』からアルマヴィーヴァ伯爵のアリア、『ノルマ』から<これでお前と私と>、『皇帝ティトゥスの慈悲』からの二重唱他。

<つばめ>はこの曲集と、その訂正版に掲載されたのみ。

#### Schumann, Robert “Lieder für die Jugend”

Leipzig, Breitkopf & Härtel, [not before 1849] 請求記号 M2-836

---

## ワーグナー

### オペラ『ローエングリン』より結婚行進曲

---

ワーグナーの曲は『さまよえるオランダ人』から つむぎ歌、『タンホイザー』から 巡礼の合唱 と 夕星の歌、そして『ローエングリン』から 結婚行進曲 と、数としてはそれほど多くはないが、とりあげる 結婚行進曲 はさまざまな、それもかなりとっぴな歌詞がつけられて唱歌集や軍歌集に使われた。最初の登場の 婚儀 (明治 22 年 2 月)は原曲の雰囲気を与えている。その次の 春の夜 (明治 23 年 1 月)や 四季 (明治 26 年 12 月)も、原曲とは異なるものの、この時代の唱歌の歌詞としてはそれほど違和感がないが、その後、歌詞は、軍歌やスポーツに関係する歌詞がつけられ、大きく変わってしまう。

日本男児 は明治 25 年 8 月に『帝國唱歌』の第五巻に 櫻はかくはし の題で掲載された後に、明治 27 年に『明治軍歌』に再録され、その際題名が 日本男児 に変わった。『明治軍歌』はその前年に出版された『日本軍歌』とともに、日清戦争時に作られた軍歌集のなかでは編集に音楽関係者が加わった質の高い出版物で、詞はこの 日本男児 を担当した落合直文を始め、当時の国学者や歌人が名を連ねていたし、当時の大出版社から出された。つまり、音楽面からも、詞の面からも、流通の面からも他の唱歌集に与えた影響は大きかったといえるだろう。日清戦争後の高揚した気分が溢れ、軍歌がはびこっていた時代でもあった。大正時代にもさまざまな歌詞で唱歌集に収録されるが、本来の歌詞に戻るのには昭和の 10 年代に入ってからになる。

一緒に展示したのはローエングリンの物語を絵本にした本である。

ウィリー・ボガニーは画家、挿絵画家として活躍したが、舞台美術家としても知られている。『タンホイザー』や『パルシファル』も題材にしている。

#### 展示資料

櫻はかくはし、日本男児 明治軍歌 全

東京：博文館，明 27 年 11 月 請求記号 M5-448

納所弁次郎、鈴木米次郎編集、全 30 曲 で、西洋曲は 16 曲。

グノーの『ファウスト』から 兵士の合唱、ベッリーニの『清教徒』から 喇叭の響きが聞こえ 等。

日本男児 は以後 6 回他の曲集に再録される。題名は初出のときを除いて、日本男児 を使用。

祝捷歌(運動會、ボート競争等に用フ) 教科統合 少年唱歌 六編

東京：十字屋，明治 34 年 8 月 請求記号 C16-014

この題名、詞の内容での掲載はこの唱歌集だけ。

Pogany, Willy "The Tale of Lohengrin Knight of the Swan "

London, Harrap, [1913] 請求記号 J62-413

展示箇所は結婚式の場面

---

## ウェーバー

### 魔弾の射手 序曲

---

ウェーバーの作品も多数使われた。オペラ『魔弾の射手』では 序曲、アガーテの祈り、狩人の合唱、女声合唱 花輪を編みましょう の 4 曲が種々の歌詞を伴って唱歌集に取り入れられた。子守唄 (op. 13-3)も人気があった。

さて、展示に使った『魔弾の射手』の序曲だが、オペラの序曲のため、さまざまな歌詞がついて当然といえば当然である。この曲の場合、明治 21 年の 別れの鳥 として 3 部合唱に編曲されて明治 21 年に出版されるが、その後、多くの讚美歌集に収録される。讚美歌以外の収録は 卒業の別れ

明治 29 年、霞のあなた 明治 39 年 8 月、夏野 明治 41 年 6 月、月夜 明治 41 年 7 月、秋の夜半 明治 43 年 8 月、誠の道 明治 44 年 12 月。一緒に展示したのは出版も手がけたことのあるツレーナーがピアノ編曲を担当し、1822 年にマインツのショットから出版されたヴォーカルスコアである。出版当時の値段に訂正が施されている事から、1822 年より後の出版物と思われる。「魔弾の射手」は 1821 年に作曲者自身によるピアノ版がベルリンのシュレージンガーから出版されており、ウェーバーのポートレートが附いていたが、ショット版はタイトルページをオペラの一場面で飾る事で初版出版社に対抗し、購買意欲を刺激しようとしたのだ。



### 展示資料

#### 別れの鳥 明治唱歌 第二集

東京：中央堂，明治 21 年 12 月 請求記号 J95-151

別れの鳥 は 2 回他の唱歌集に再録。

#### 第七十二 信徒生活 試練 新撰讚美歌

東京他，奥野昌綱他，明治 33 年 5 月（明治 23 年 11 月出版の同書の後刷） 請求記号 A10-961

#### “Der Freischütz Romantische Oper in 3 Aufzügen ”

Mainz, Schott, [not before 1822] 請求記号：M8-490

展示箇所は序曲の主題

西洋曲の全貌はまだつかめていない。この文章は 2008 年 5 月末日現在までに判明した事を基に記した事をお断りしておく。